

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第35週 (8/27-9/2) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		35週	34週	33週	32週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	17	17	16
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	27	26	26	20
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉市					千葉県
		注意報	8/27-9/2	8/20-8/26	8/13-8/19	8/6-8/12	8/20-8/26
			35週	34週	33週	32週	34週
小児科	RSウイルス感染症		6	16	11	7	129
			0.33	0.94	0.65	0.44	0.98
	咽頭結膜熱	○	9	7	3	8	62
			0.50	0.41	0.18	0.50	0.47
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	30	24	9	13	186
			1.67	1.41	0.53	0.81	1.41
	感染性胃腸炎	○	94	55	60	33	312
			5.22	3.24	3.53	2.06	2.36
	水痘		1	1	2	0	37
			0.06	0.06	0.12	0.00	0.28
インフル	手足口病		32	13	14	15	98
			1.78	0.76	0.82	0.94	0.74
	伝染性紅斑		2	3	1	2	64
			0.11	0.18	0.06	0.13	0.48
	突発性発しん		12	13	6	10	66
			0.67	0.76	0.35	0.63	0.50
	ヘルパンギーナ		21	22	28	47	110
			1.17	1.29	1.65	2.94	0.83
	流行性耳下腺炎		1	3	0	1	13
			0.06	0.18	0.00	0.06	0.10
眼科	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	1	0	0	2
			0.00	0.04	0.00	0.00	0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.06
眼科	流行性角結膜炎		4	7	1	6	37
			0.80	1.40	0.20	1.50	1.06
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
基幹定点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(26件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	男性	10歳代	臨床決定
	女性	10歳代		百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出等
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳未満	臨床決定
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起病因菌の判定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出等
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第35週は、結核2件(119)、腸管出血性大腸菌感染症2件(17)、レジオネラ症1件(8)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(11)、百日咳13件(135)、風しん6件(40)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第35週のコメント

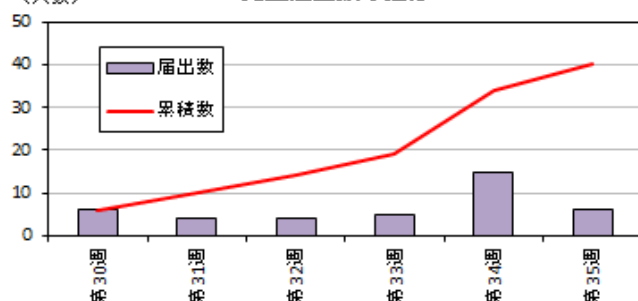
＜咽頭結膜熱＞前週より更に増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べると最多。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より更に増加し1.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜感染性胃腸炎＞前週より更に増加し5.22となった。過去10年の同時期と比べると最多。

トピック

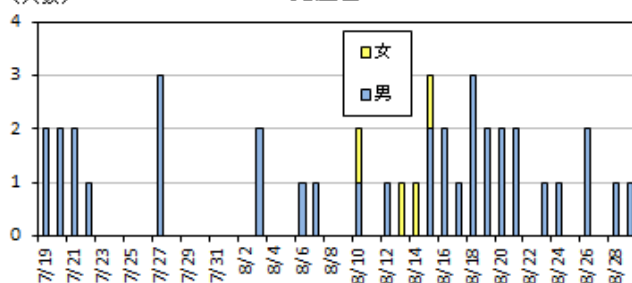
＜風しん＞

全国レベルの第34週の累積報告数は273件で、昨年の同時期と比べるとおよそ4倍強となっています。都道府県別では千葉県、東京都、神奈川県順で多く報告されており、千葉県を中心として関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が始め、第35週は6件の発生届があり、2018年の累計は40件となりました。性別では男性が90.0% (36名)、女性が10.0% (4名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代(35.0%:14名)、40歳代(27.5%:11名)、20歳代(17.5%:7名)の順で多く、40歳代～50歳代が中心となっています。居住地別では全区から発生報告があり、中央区(25.0%:10名)、稲毛区及び緑区(共に17.5%:7名)の順で多くなっています。

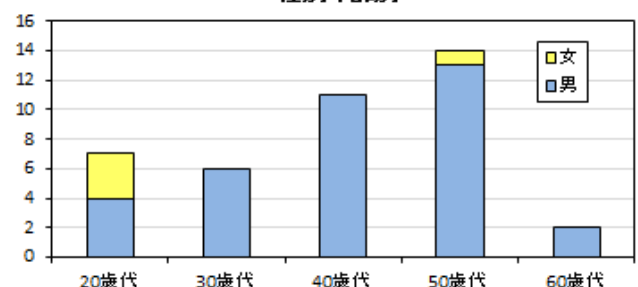
(人数) 発生届出数の推移



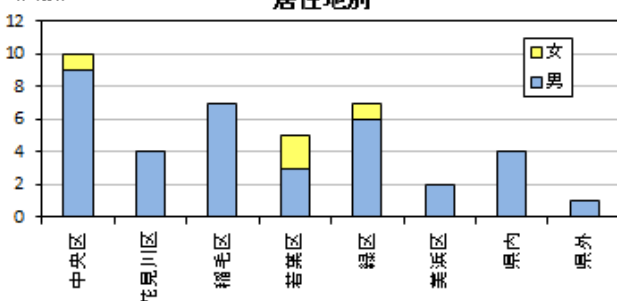
(人数) 発症日



(人数) 性別年齢別

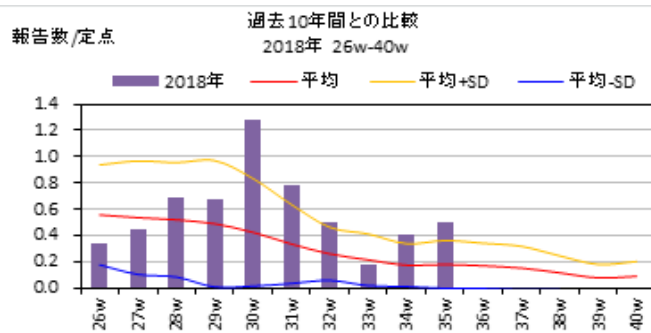
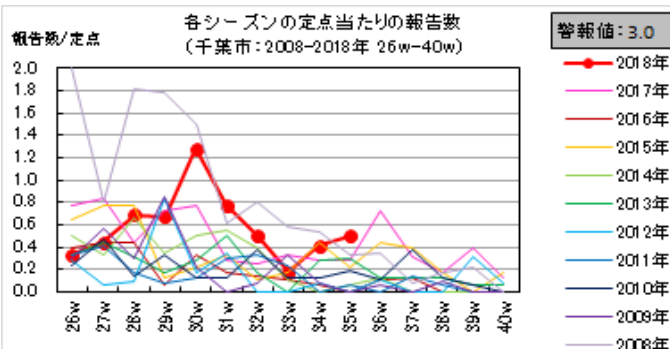


(人数) 居住地別

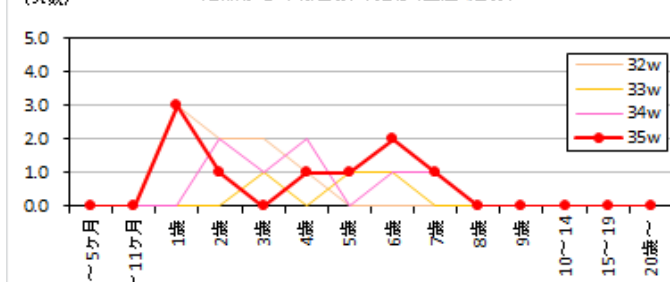


＜咽頭結膜熱＞

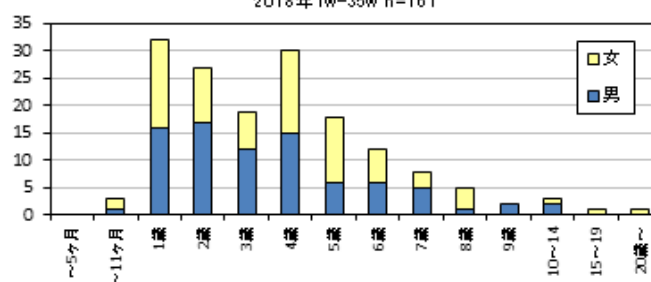
全国レベルの第34週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では沖縄県、鹿児島県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第34週から増加に転じ、第35週は前週より更に増加し0.50となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は緑区(2.25/定点)のみから発生報告があり、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第35週までの累積報告数(n=161)によると、性別では男性が51.6%(83名)、女性が48.4%(78名)で、年齢階級別では1歳(19.9%:32名)、4歳(18.6%:30名)、2歳(16.8%:27名)の順で多くなっています。



(人数) 定点からの報告数の推移(直近4週分)

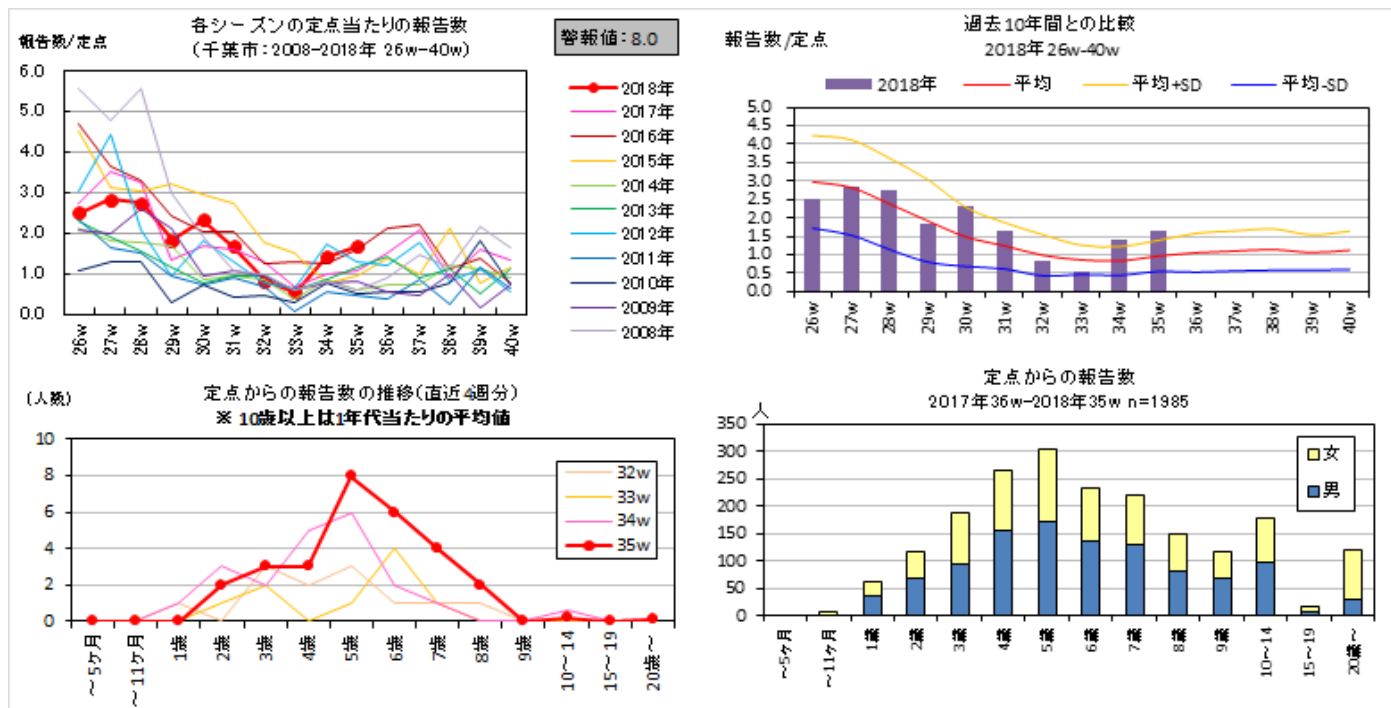


(人数) 定点からの報告数(累計) 2018年1w-35w n=161



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第34週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、福岡県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第34週から増加に転じ、第35週は前週より更に増加し1.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は緑区(5.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第35週までの累積報告数は1985件で、性別では男性が54.5%(1081名)、女性が45.5%(904名)で、年齢階級別では5歳(39.5%:305名)、4歳(13.4%:266名)、6歳(11.8%:235名)の順で多い結果となりました。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第34週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では大分県、鹿児島県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では第33週から増加傾向に転じ、第35週は前週より増加し5.22となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は若葉区(10.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第35週までの累積報告数は4766件で、性別では男性が54.6%(2603名)、女性が45.4%(2163名)で、年齢階級別では1歳(17.7%:844名)、2歳(13.2%:627名)、3歳(10.8%:517名)の順で多い結果となりました。

